

トレーニング・ユニットの製作

本章以降では、多くの例題プログラムが登場します。本章では、それらを実際に試してみることが出来るトレーニング・ユニットの作りかたを解説します。

トレーニング・ユニットは、メイン基板とプログラマ基板で構成されており、プログラマ基板は汎用のプログラマとして流用できます。

3-1 トレーニング・ユニットの全体構成

トレーニング・ユニットの全体構成を図3-1に示します。電源は9V程度のACアダプタと5Vの3端子レギュレータで供給します。メイン・クロックは20MHzのセラミック振動子を使っています。

プログラム書き込み用のPCとのEIA-232インターフェース部分は、プログラマ基板として組み立て、書き込みのときだけ接続して使うようにしました。そして、メイン基板には内蔵UARTで使うEIA-232インターフェースを実装しています。このようにすることで、プログラマ基板側は汎用的に利用できます。

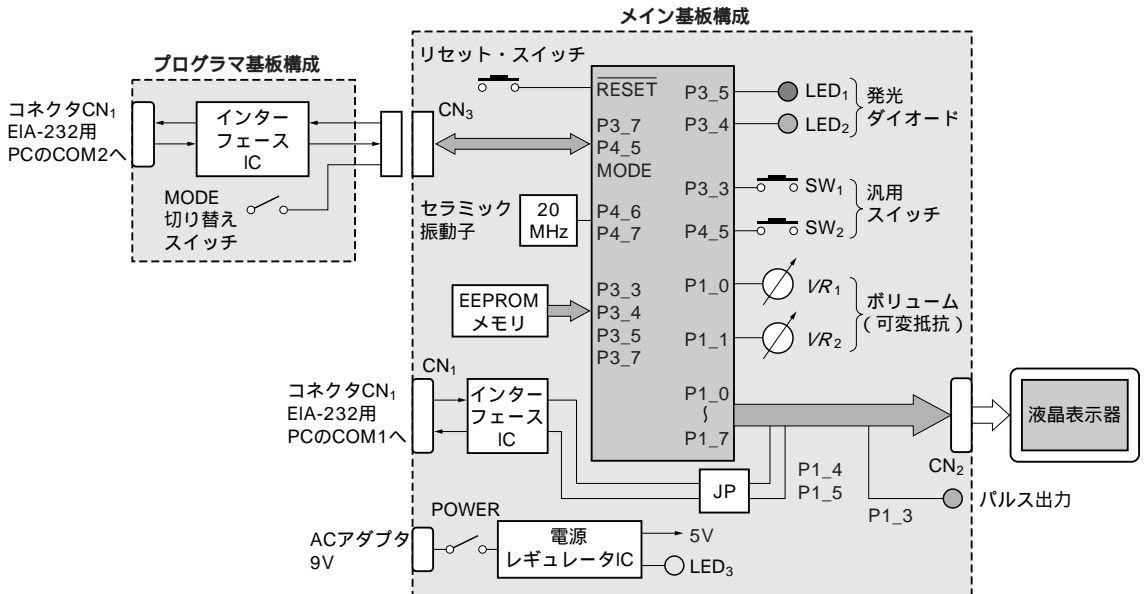


図3-1 トレーニング・ユニットの全体構成図